

年頭所感

神奈川歯科大学同窓会会長 藤田 晃

新年明けましておめでとうございます。

平成17年年頭に当り、謹んで新年のお慶びを申し上げます。

会員の皆様には、日頃より会の運営に御理解と御協力を賜り厚く御礼申し上げますと共に、記念すべき100号会報に年頭のご挨拶を述べる機会をお与え下さり重ねて感謝申し上げます。

昨年は、日本中が喜びと感動そして災いが稠い混ぜとなった大変な一年でありましたが、歯科医療界・本学・本会においても同様に多事多難な一年でした。

私は昨年来本会の周囲で生じた全ての事象を直視し、教訓として学んだ上で、胸に収め、これからの会務運営に役立たせる決意であり、とりわけ、私の第一公約である組織強化（会員増強）の推進に全力を尽くすことをお約束いたします。

この課題は二期にわたる臨時委員会で協議いただき、《答申》がなされ、来る2月26日の第68回代議員会にて代議員特別委員会の設置をお願いする運びとなっておりますが、皆様にはこの誌面をお借りしてその《答申》の大要である4項目を引用し、現状と所感を述べ、勝手ながら新年のご挨拶とさせていただきます。

- (1)学校法人の理事会・教職員・学生と学生会・父母会との間に個々の親密なる連携が不可欠あり、その構築と維持に務めなければならない。
- (2)入会金に関し、その額の削減もしくは廃止、併せて、代替として入学時に何らかの形で徴収を計る必要を認める。
- (3)夫婦会員、親子会員等の会員種別を設け、徴収金額を考慮する必要を認める。
- (4)会則改正を含め代議員会の議決を必要とする案件であるため「会務検討特別委員会」様の形式にての特別委員会で最終的に論議がなされなければならない。 — 《答申》より抜粋 —

この《答申》は、(1)で本会の立場と存在意義、周囲との疎通の確立を求めた上で会員とその周囲

の意見を聴取し、(2)と(3)にまで絞り込み、(4)で手順の明示がなされています。簡潔で立派な《答申》を頂いたと感謝しています。

(1)に関しては、執行部の本分であるとの認識のもと発足時より活動してまいりました。私自身は、週に数回大学に出向き、理事長・学長・教職員と懇談の機会を得ています。学生会とは、懇談会の開催と園遊会参加を通じて学生との交流が増し、事務局への来訪もあり、昨年の卒業謝恩会には執行部全員が招待状を頂きました。

父母会との相互理解は、5年前納制に関してのみならず絶対に不可欠でありながら以前は交流がなく、不十分でしたが、少しばかりの障害を越えて役員懇談会を開催し、今では相互不干渉を前提に親しく交流を行えるまでになりました。

また、本会と会員の意思疎通も最重要と考え、IT委員会の発案によりメーリングリストの活用を始めました。今後の展開に期待しています。

(2)に関しては、施行の公正と時期・金額及び方法論で論議の紛糾が予想されます。

(3)に関しては、公正さは無論ですが会計処理が問題となるでしょう。

(4)に関しては、代議員会において特別委員会の設置を承認して頂くための資料作成に追われているのが現状です。

以上、現状の概要を述べてまいりました。賢明な皆様がお気付きの通り、組織強化の道のりは複雑で険しく困難の連続が予想されます。

しかしながら、明るい材料もあります。高橋和人新理事長が就任の所信表明のなかで「大学と同窓会とは両輪の関係でなければ各々の存在はあり得ない」と明言して下さいました。

入会の動機付けの行使と郵便物の有効利用などのお願いが容易になったと理解しています。また、新理事長のもとで大学に活気が戻ってくるのではと期待しています。

私は、大学が元気であれば同窓会も元気になる、同窓会が元気であれば大学も元気になり、両輪が元気であれば歯科医療界も元気になるかと信じています。

皆様におかれましては、母校と歯科界発展の観点からも組織強化（会員増強）にご協力を賜りますようお願い申し上げます。

平成17年が皆様にとって健やかで喜びの多い一年であることをお祈り申し上げます。